

「会津七福神巡り」へ導く御朱印帳

A2201633 渡邊 史子

研究の背景

会津では三十三観音巡りが有名だが、もう一つの寺社巡礼である「会津七福神巡り」(以下七福神巡り)がある。七福神は江戸時代中頃より、暮らしに幸運をもたらすとされ、現在まで私達の身近な神様として信仰されてきた。七福神の礼所は全国各地に点在し、各地域で正月の初詣を兼ねた七福神詣や、七福神巡りを行うことでご利益を得るという習わしがある。会津での七福神信仰は戊辰戦争による荒廃と明治の廃仏毀釈により廃れたが、七福神巡りとして昭和62年より旧会津領の6寺1社で発足した。七福神巡りには「七福神を参拝することで、七つの災いを取り除き七つの幸福をもたらす」とされている。しかし発足後30年経つが、七福神巡りの御朱印があるのにも関わらず認知度は低く、会津在住者にも深く根付いていない。そこで多くの人に関心を持ってもらうため、会津七福神巡りの「御朱印」に着目した。本研究では、女性を中心とした会津在住者や会津を訪れる観光客に会津七福神巡りの知名度を向上させ、巡礼を促すためのツールとして、新しい形態の御朱印帳を提案する。

研究の目的

現在国内には若い女性の間で話題となっている「御朱印巡り」がある。御朱印そのもののデザイン性や、それらを集印する御朱印帳の可愛らしさやお洒落さに惹かれ集める女性が増えている。七福神巡りでもまた、各神社仏閣で御朱印を拝受できる。本研究では七福神巡りの知名度向上及び巡礼を促すための御朱印帳を制作する。御朱印帳は、朱印を押印するページと七福神の由緒書のページを組み合わせることで、従来とは違う新しい形態を目指した。御朱印帳の表紙は各七福神の特色を用いた女性の好むデザインにし、神様ごとの特色に目を向けさせる。また御朱印帳の選択は七福神巡りへの導入部となる。そこで、1種類ではなく数種類にすることで選ぶ楽しさも重視した。帳内には、七福神の由緒書を設けることで、参詣前の前知識として理解を深めることができる。御朱印巡りを通して、会津の七つの福をより身近に感じてほしいと考えた。

研究のプロセス

[1. テーマの決定]

会津には7箇所の神社仏閣を参詣することで「7つの厄を祓い、7つの福を受ける」といった「会津七福神巡り」があるが、認知度が低いことが分かった。そこで女性を中心に、七福神巡りの知名度向上と巡礼を促すためのツールとして、新しい形態の御朱印帳を制作すると決めた。

[2. 御朱印帳制作のための調査]

御朱印帳を制作するために必要となる、七福神や各神社仏閣について調査した。

[3. 御朱印帳の表紙デザインを進める]

表紙デザインは、七福神巡りに関心を持たせるための要素の一つのため、各七福神をモチーフに女性に好まれるようなデザインにした。また表紙に和紙を用いることで、会津の温もりを表現した。

[4. 由緒書及びマップの制作]

七福神の由緒を掲載した計7ページを制作。また、各神社仏閣の所在地の全体マップと詳細マップを制作。

成果物(完成作品)

[御朱印帳の仕様]

サイズ:110×160mm(表紙)

ページ数:計8ページ 表→御朱印の押印ページ、マップ
裏→各七福神の由緒を掲載

表紙の種類:七福神1柱ずつ×7 七福神全て×1
→計8種類の表紙を制作する。

素材:和紙(保存性、耐久性に優れており、品の良さ・温もりを表現できる。)



[七福神の各要素]

以下の要素を参考に、各表紙のデザインを行った。



1. 恵比寿天
 - ・七福神で唯一の日本の神
 - ・衣装: 風折烏帽子、狩衣
 - ・もの: 釣竿、魚籠、鯛



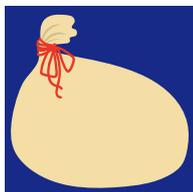
2. 大黒天
 - ・ヒンドゥー教の神(大国主命)
 - ・衣装: 頭巾、狩衣
 - ・もの: 福槌、大きな袋、米俵、鼠



3. 毘沙門天
 - ・財宝の象徴、北方の守護神
 - ・衣装: 甲冑
 - ・もの: 戟(宝棒)、宝塔、邪鬼



4. 弁財天
 - ・七福神で唯一の女神, 水神
 - ・衣装: 宝冠、唐服
 - ・もの: 琵琶



5. 布袋天
 - ・七福神で唯一の实在人物
 - ・衣装: 福々しい笑顔、太鼓腹
 - ・もの: 大きな袋、団扇



6. 寿老人
 - ・道教の神、南極星の化身
 - ・衣装: 長頭、短身、長い白髭
 - ・もの: 杖(巻物)、団扇、桃、鹿



7. 福祿寿
 - ・道教の神, 南極星の化身
 - ・衣装: 頭が異様に長い、白髭
 - ・もの: 杖(経巻)、宝珠、鶴、亀

考察

今日国内で若い女性の話題になった「御朱印巡り」に着目し、会津でも神社仏閣や七福神巡りを多くの人に認知してもらうための研究をしてきた。新しい形態の御朱印帳を通して、今まで知らなかった神社仏閣の存在や私たちの身近な神様にふれるきっかけとなれば良いと考えている。

神社や寺、また神様によってそれぞれの特性や由緒を視覚化し、多くの人に伝える難しさを知った。反省点は、取材不足のため計画通りに作業が進行しなかったこと、また成果物が冊子という初めての制作だったため、製本作業の効率が悪かったことである。